

紙面のご案内

- 1面：年頭のご挨拶(自治会長)
- 2面：文化展の回顧
- 3面：発行150号記念特集
- 4面：その他一般

ゆり北

第150号 (14期第8号)

発行・光が丘パークタウン

ゆりの木北自治会

東京都板橋区赤塚新町

3-32-4-403

電話03(3938)9181番

発行責任者 吉 柳 俊 孝



ゆり北団地 左4号棟、右1号棟

謹賀新年

ゆり北新聞 発行150号記念

平成9年(1997年) 元旦



年頭のごあいさつ

心やわらぐ団地を

めざして

「ゆり北は良いですね」という言葉をよく聞きます。ひとつは立地条件の良さ―営団有楽町線や東武東上線で五分の交通アクセス。もうひとつは環境条件の良さ―都立光が丘公園、区立新町公園、ゆりの木通り、けやき通りなど緑の濃いこと。ゆりの木商店会などの生活利便施設があること。そしてコミュニティの良さがあげられます。自治会や管理組合活動の活発さは、光が丘地区のなかでも有数といわれています。団地という、とかく閉鎖的なイメージを持つ方も少なくありません。鋼鉄製のドア一枚で世界が仕切られてしまうのですから。「扉を開けて、コミュニ

ニティ」という言葉を掲げた団地もあります。

この扉に、クリスマス・リースや正月のリースが飾ってあったり、節分にイワシがぶらさがっていたり、小さな鯉のぼりがベランダで泳いでいたり、七夕かざりが風にゆれていたり、そんな季節を感じさせる風景がみんなを和ませています。

ゆり北も十四回目のお正月を迎えて、ますます住み続けていきたいと思える団地に育てていきたいと思えます。皆様のご協力をお願いいたします。

ゆりの木北自治会会長 吉柳俊孝

謹賀新年

平成9年 元旦



みのりのゆり北文化展

1996.11.23/24

恒例のゆりの木文化展が十一月二十四・二十五の二日、新町小体育館で開催されました。外はもみじが真赤に色づき、体育館の中は老若男女が文化的な気分浸れた二日間でした。

今年は目新しい「シャドーボックス」や「世界のビール缶」を集めたモチーフなどいつもながらの参加者の目を楽しませてくれる出し物がありました。一方体育館の片隅に女性八六歳の林さんを先生に手芸教室でした。今年は林さん所蔵の布できんちやく袋の製作です。宿題以外にはおそらく針など持たないと思われる小学生の女子も一心に針を動かしていました。どんなものでも自分の作った物はうれしいものです。

一針一針、心をこめて

文化展手芸の部

去年の「お手玉作り」が好評だったので、今回もゆりの木会の林さんに再び講師をお願いして「小物入れ袋を端布で使い、手縫いで作ってみよう」と企画しました。

お手玉よりも技術的にはかなり高度なもので、小学生には少し難しかったかも知れませんが、大人に混じって根気よく針を動かしている姿はとても感動的でした。そんな子ども達に、林さんは「形はどうあれ一生懸命縫ったのだからえらい。どれ、かしてごらん。仕上げてあげよう。」とおっしゃって、最後の紐通しのところ（ここがちょっと素敵でこの袋の魅力なのです）を作り完成させて手渡します。嬉しそうな顔、満足そうな笑顔がたくさん見られました。私は幼い頃、母が縫い物を始めるとそばで見ているのが好きでした。

「シャドーボックス」ご存知ですか。五枚の絵を適当に重ね合わせた立体的な絵です。最近出始めたものです。その他にも出展者に色々質問している風景など出展者と参加者が共に作っている文化展でした。

毎度ながらの喫茶コーナーは裏方さんは大変でしたが、評判は良く心くつろげるコーナーでした。今年はアンケートも行い、来年への参考にしたいと思います。皆様ご協力ありがとうございました。皆様ご協力ありがとうございました。尚、お宅に眠っている作品、あるいはこんな事していますという方、来年はぜひ出品して下さい。

文化展を住民の交流の場となるような催しにしてゆきたいと思っています。作品の出展にご協力戴いた方々に紙上より御礼申し上げます。



あるところでは。

「きれいに縫えたね」「とても良く出来たね」などと褒められる人、「ここを縫ったらだめよ」「針目をもう少し細かくね」と言われる人、教えられるたびに「はいっ、はいっ」と良い返事をする人など、裁縫の得意な人も、ぶきっちょさんも林さんの言葉に嬉しくなったり、畏まったりしながら、手縫いが作り出す喜びをみしめました。

西沢



文化祭バンザイ

たのしかった文化展

ゆりの木北文化祭に両日とも楽しく場内を見学させて頂きました。そしていつもながら見事な作品に心から感激の拍手をおくりたいと思いました。今回はゆりの木会の会員と他クラブの友人の作品が多く出品されており、文化祭に協力する意気込みを感じました。なお、私のゴミアートは今回出品しないつもりでしたが文化祭に貢献しなければと思い、急遽作ったものでパーマンにはあまり似ていない作品でありましたがゴミアートの面目は果たしたつもりです。終りに喫茶コーナーのお菓子付きコーヒを大変おいしく戴きました。どうもご馳走さまでした。

ゆりの木会 高槻

文化展

アンケートより

①よいと思った展示品

・シャドウボックスというものを初めて見ました。疑問、質問に答えて下さる製作者がおられた事は嬉しく、作品の緻密な美しさを具体的に知ることができた。

・年配の方の作品。アメリカン・フーラー

・絵画・写真・詩 e t c.

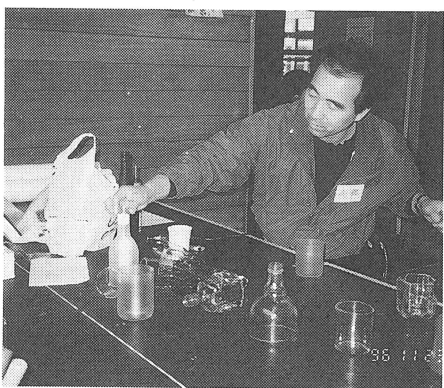
・小野上村のコンニャク、うまい

②手作りコーナーについて
目的をもって会場に来ることができ、完成の喜びと共に帰ることができることはどんな催しにも良いことです。

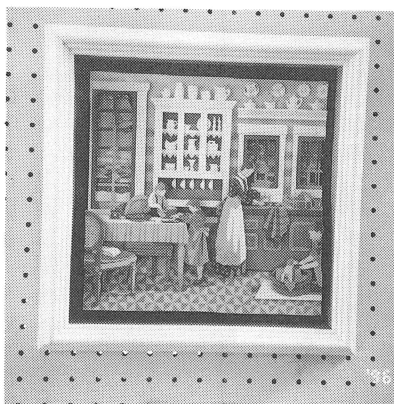
・キャンドル・スタンド。朝からやってほしかった。



喫茶コーナー



キャンドル・スタンド



シャドウボックス



作品と製作者

③その他

- ・魔法のようなおばあちゃんの手が大好き。
- ・手作りコンニャクコーナーも作れば良かった。
- ・このような文化的な行事や企画があることは素晴らしい。
- ・ポスター・チラシでもっとよびかけを。
- ・もっと作品がたくさん集まるようにPRしてほしい。
- ・団地内にある学童や保育園・学校に働きかけて作品がもっと集まるいいなと思いました。
- ・喫茶コーナーでコーヒを頂けるとは思いませんでした。
- ・おいしいお茶とお菓子ごちそうさまでした。ひと休みできるのはうれしいです。

この他、来年は作品出展で頑張るという方も数名おりました。来年の文化展は更に素晴らしいものになりそうです。

一九八三年十一月二〇日「ゆり北」第一号が産声をあげた。それから十四年目の新年号で第一五〇号を迎えた。おおむね月一回の発行を続けてきたことになる。「ゆり北」は単なる自治会の機関紙ではなく、情報の提供、コミュニティの育成を目的にした。会員相互の交流の場を心がけてきた。投稿の多いのが特長である。

十三回の新年号の巻頭頁のいくつかと、編集に携わった人々の投稿で十三年を振り返りかえって見た。



ゆり北第2号が最初の新年号。寒い冬でもあったためか暖房が効かないこともありました。「奇人・変人・ゆり北人」なんてコーナーもありました。

出発点は素人ばかり

四号棟 西村 勇

第一号発行当時の組織広報担当は阿部さん(十号棟)、布施さん(十一号棟)、桃井さん(五号棟)、私と担当自治委員の皆さんでした。

全員全くの素人で、私は、印刷会社勤めでしたが、組合の謄写版(鉄筆で原紙に書く)程度でした。原稿集めから、写真、カット、文字校正、レイアウト、など大変苦労しました。幸い女房が編集を仕事にしていた関係で、文字校正やアドバイスを受けました。印刷所も紹介してもらいました。期日まで原稿が集まらない。現在も広報の苦労は、同じだと思います。

した。改めて今日の「ゆり北」の発行に携わっている役員の皆様方に敬意を表します。できるだけ写真やカットを多く使って読みやすい「ゆり北」を期待しています。

がむしやらが懐かしい

十四号棟 西澤由美子

晩秋の光が丘公園を歩いた。黄金色に染まった銀杏の葉が、一塵の風にはらはらと散って美しい。桜の紅葉も目に鮮やかだ。「ああ、いいなあ。きれいだなあ。生きているって感じがする。」ここに住んでもう十三年になる。若木は成長し、四季折々の移ろいを投げかけ、楽しませてくれる。この環境をいつまでも保ちたいと考えながら自治会活動に参加してきた。広報部に身をおいたのも、印刷関係の仕事の延長線上で楽勝と思っ

みんな子育てで一五〇号 苦労もあったが、楽しみもありました。

ていたのかも知れない。恐いもの知らずだった。しかし、自分で取材し原稿がスラスラ書けるほど、物事が分かっていく訳でもなく、会員からの投稿や依頼原稿で何とかまず目を埋めてゆき、その繰り返しで一年はあっという間に過ぎて行った。意欲だけは十分あったが、伝達方法が未熟で肩に力が入りすぎ、思うところの半分も表せなかった。若かったあの頃の苦い思い出であるが、がむしやらの熱意も今は懐かしい。

会報「ゆり北」は号を重ねるにつれ、編集者の個性がそこはかとなく出ていて面白いと思う。これからも会員の身近な情報源として、語り合える場として末永く愛され続けて欲しい。

子連れで頑張った

三号棟 荒瀬弘子

平成五年度の広報担当として、会報づくりのお手伝いをさせていただけ

きました。打ち合わせには、当時八歳の娘を連れて行き、そばで一人遊



新聞討論として、会員の皆さんに無作為に原稿依頼して、「モラル」「駐車場問題」の特集を続けました。新町小山下教頭(故人)の童話連載も好評でした。

10周年をすぎて、団地の樹々が生い茂りバードウォッチングも出来る様になりました。シリーズ「おすすめ湯ったり」は人気でした。



これからみんなの新聞
一号棟 島田 浩

自治会「ゆり北」の第一号が発刊されたのは、このゆり北団地ができた昭和五十八年十一月でした。それから実に十四年、毎月一回の発行を欠かさず今日まで続けて来ました。ひとくちに「一五〇号」といいますが、入稿の期限が迫るのに、いつこうに原稿が集まって来ない、そういった苦労の中、挫折する事なく今日まで続けて来られた先人の苦労を思うとき、決してこの灯は消してはならないと思います。

現在私は、この光輝ある伝統をもつ「ゆり北」の編集を預かっておりますが、団地のみなさん、この会報「ゆり北」が今日まで一五〇回の発行を見たのも、団地のみなさんの暖かいご支援があつてのものに信じます。会報「ゆり北」は、編集者の新聞ではありません、団地住人みなさんの新聞です。どうかどしどし投稿していただいて、我々ゆり北の新聞として、いつそう輝かしい伝統に磨きをかけていくようではありませんか。

【ゆり北編集に携わった人々】

一号棟 北村(転)、佐藤(転)、田中、島田

三号棟 福田(転)、荒瀬
四号棟 吉柳、渡辺・利、渡辺・久、西村
五号棟 桃井、濱田
八号棟 坊野、鈴木(転)
十号棟 阿部・憲、菰田(転)、比鋪林
(転)、竹内、内田、阿部・幸、小林
十一号棟 布施(転)
十二号棟 原島
十三号棟 越沼(転)
十四号棟 西沢、滝谷、堤(転)
自治委員で編集に参加いただいた方も数名おります。(転)は転出者。

ホームレス対策で関係機関に要望

まだ出役していません

「ゆり北」第一四七号（九月二十五日付）で報告したホームレス対策について、役員会では十月二十八日付で板橋区長、公団東京北営業所長、高島平警察署長の三機関に対して申し入れを行いました。区には、公園、公衆便所の管理の徹底と厚生対策を、公団には、夜間巡回や遺留物の処分などを、警察にはパトロールの強化を要望しました。

警察署はすぐ生活安全課長が現場を調査に見えられ、パトロールと難しい局面では一〇番で対応するとの回答がありました。公団は、業務第一課長から、夜間巡回は難しいが具体的な対応は現場の主任に指示したとの回答でした。

板橋区からは十一月十八日付で文書回答がありました。要旨は「九月末に新町公園の付近の方から陳情が



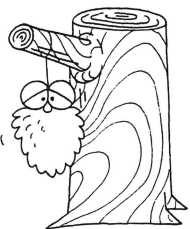
ホームレスの遺留品(?)

あり、退去を求め十月三十一日に退去した。十一月七日現在ホームレスはいない。福祉については個別に福祉事務所と相談に依る。東京都と二三区と共同で宿泊施設などの検討中である。」というものでした。

しかし、その後も自治会のパトロールでは、衣類などの遺留品や寝た

痕跡が認められており、十一月三十日にはごみ置き場で寝ているホームレスを退去させています。

これから寒さが厳しくなると住棟への立ち入りも予想されます。引き続きパトロールでの監視を行っていきますが、ホームレスの泊り込みなどについてお気付きの方は速やかに役員までご一報下さい。深夜には一〇番通報をお願いします。



この住宅に住み続けたい 全国居住者総決起集会

公団の民営化、絶対反対!!
ここ、ゆりの木団地の賃貸居住者を代表して十二月五日千代田区公会堂で開かれた『全国公団住居者総決

十月二十七日、赤塚新町小学校校庭で行われたゆり北防災訓練に参加しました。前日、木枯らし一号が吹いたので寒い中での訓練にならないかと心配しましたが、晴れて風も穏やかな暖かな日となりました。

落着いて通報を

防災訓練参加記

住宅管理組合の駐車場抽選日となったため、訓練に参加した人は約五十名と例年より少ないのは寂しいことでしたが、かえって全員が実地訓練を受けるという利点もありました。参加者は四班にわかれ、(一)消火訓練、(二)担架や三角巾を使った救護訓

練、(三)倒壊物の下敷きになった人を救出する訓練、(四)火災や救急事故を一一九番に電話で知らせる通報訓練と、四つの訓練を順次受けました。

自分の住戸から火が出たらまず「火事だ」と叫んで近所の人に知らせること、消火できずに住戸外に出たときは、煙が通路に出ないよう、ドアは必ず閉めること、またベランダは避難通路となるので、ふだんから物置は置かないことなどの注意が記憶に残りました。

防災用品の展示もあり、手回しで電気を起こす防災ラジオを試せたりたいへん参考になりました。

二号棟 辛島 睦

ろ実に一、二三〇名の方々の署名と約十一万円のカンパをいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

なお署名は、全国からの署名分と合わせて全国公団入居者総決起集会終了後、住宅・都市整備公団と建設省に提出しました。

(住宅対策部 安倍)

防火活動で

表彰四回目

秋の火災予防運動終了にあたって志村消防署長より「感謝状」が贈られました。昭和六十年、平成四年、平成七年に続き四回目の受賞となります。

原稿募集

みなさん、お正月はいかがお過ごしですか。寝正月でしたか、スキーでしたか。海外旅行でしたか。それどころではない仕事をしていますか、という人もおられるでしょう。

そんな様々のお正月をお寄せ下さい。縦書き原稿用紙、八〇〇字以内

締切 一月九日(木)まで

広報担当 島田(一一六〇五)、吉柳(四一四〇三)、渡辺(四一七〇五)、滝谷(十四一五〇八)まで

編集後記

◇準備会から広報に關わつてきました。その時々の編集スタッフの新たな視点に驚かされたり、感心したりでした。『ウーンどうしよう』から始まり、『ホッ』とするのもつかの間また次の号です。期待して下さいネ

(K)

◇下手の横好きとはよく言ったもので、何となく文章を操るのが好きで広報部員になりましたが、それでも団地の中を広く見・接するチャンスとなりました。

ツッパリ型の私ですが今年は少し牛歩を入れてゆきましょうか(H・W)

◇記念すべき発行一五〇号の編集にたずさわることができた光栄を噛みしめております。今年はウシ年、バツファローのように鈍重ながら期待される「ゆり北」の制作に向って猛進したい。(S)

◇一昨年から不幸が続き、悲しみと淋しさに追われる日々でしたが、今年こそはそれを乗り越えて新聞発行に力を入れたいと思います。皆様からの記事もたくさんお寄せ下さい。お待ちしております。(T)

会員のひろば

お酒は ほどほどに



お酒のおいしくなる時期になりました。悲しいにつけ嬉しいにつけ、お酒はいいものです。

しかし、「未成年者の飲酒の増加」「飲酒の強制による事故」などお酒に關係する事故は増えています。

元来日本というお国は、事お酒に關しては極めて寛容、甘い、いい加減な社会であると思います。年齢に關係なく「大学生になれば」「勤めに出れば」お酒を飲むのが当たり前の社会であります。

「赤信号みんなで渡れば怖くない」式の、みんなが飲めと言ったから私も「飲めと言った」、私も飲まなけ

ればいけないと思った」あぐく「一気飲み」などという蛮行を行い、果ては救急車のお世話になったり、本来のお酒の楽しみの範囲から外れた事故が多発しております。「皆がやっていたいば何をやってもいい(言っても)」という、無責任な感覚から私たち大人は卒業したいと思ひます。また、未成年者の飲酒については、周りの大人の注意監督がまず第一義的に必要であります。

お酒は昔から「百薬の長」と言われています。しかし一部の無責任な方々の蛮行の為に酒は今日「悪者あつかい」され衰しい思いをしていることでしょう。

ともあれお酒を飲む機会が多くなる季節となります。健康の為に飲み過ぎに注意しましょう。

「ゆり北バックス」